令和３年度　茨城県 JRC 活動実践モニター校
活動事例集

茨城県 JRC 活動実践モニター校とは

青少年赤十字（JRC）に加盟しており、青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関する研究や活動等を通して青少年赤十字精神の育成を図ろうとする茨城県内の学校等を指します。

日本赤十字社茨城県支部では年間 10 校程度をモニター校指定し、活動費の助成を通して、青少年赤十字活動の充実と振興を図っています。

目次

遊びを通して、幼児の健康と安全を推進していく P. 1
- 社会福祉法人愛の会　はーとぴあ保育園

地域と一体となった奉仕活動の在り方
～体験活動・美化活動を通したボランティア精神の育成を目指して～ P. 2
- 北茨城市立石岡小学校

美化活動を通した奉仕の精神の育成、豊かな人間関係を築く住みやすい環境づくり、募金活動を通した社会貢献のあり方 P. 3
- 大子町立だいご小学校

健康・安全に配慮した学校行事の在り方 P. 4
- ひたちなか市立堀口小学校

美化活動を通して、奉仕と感謝の心の育成を図る P. 4
- 坂東市立長須小学校

美化活動を通して奉仕の精神を高める
～みんなの笑顔をつなぐさわやか活動の推進～ P. 5
- 鉾田市立旭東小学校

ボランティア活動を通した自己有用感の育成 P. 6
- 土浦市立下高津小学校

自己肯定感を高める美化活動 P. 7
- 日立市立駒王中学校

赤十字カルタを作成する P. 8
- 茨城県立水戸桜ノ牧高等学校

パートナーシップでみんなが住みよい街づくり P. 9
- 茨城県立佐和高等学校

遊びを通して、幼児の健康と安全を推進していく

社会福祉法人愛の会　はーとぴあ保育園

活動時期	活動場所	活動対象
令和3年8月から	園内　遊戯室	5歳児

【目的】
縄跳びを通してバランス感覚を養い、「跳ぶ」「縄を回す」など、幼児期に必要な体の動かし方を経験する。

ジャンピングボードを遊戯室に設置する。

個々の興味具合や運動能力に合わせて、段階を踏みながらジャンピングボードを使用していく。

1　ジャンピングボードを、広いスペースにセッティングする
2　ボードの上に一人乗り、ジャンプをする
3　慣れてきたらリズムよく、連続的にジャンプする
4　縄を回しながら跳ぶ

【まとめ】

当初の計画では、４・５歳児が対象だったが、ジャンピングボードが予想よりも固く、園児の体が跳ね返らないため、５歳児を対象に活動を進めてきた。
繰り返し行うことで、継続してリズムよくジャンプすることができ、跳べる回数が増えていった。個人差はあるが、記録が伸びるたびに、向上心も高まっていくのを感じている。
戸外で使うと、破損や故障の原因になるとのことだったので、室内で大切に使っていく。

地域と一体となった奉仕活動の在り方～体験活動・美化活動を通したボランティア精神の育成を目指して～

北茨城市立石岡小学校

活動時期	活動場所	活動対象
令和3年5月中旬から	校内と田・大北川周辺、中郷こどもの家	全児童

【目的】
　地域の人々との交流を通して、自分から進んで人のため、みんなのため、地域のためになる活動を実践しようとする意欲を高めるために、活動を行った。

【実施内容】

奉仕活動について、意見を出し合う。(5・6年)

地域の方々とともに、大北川での水生生物調査と川周辺の清掃をする。

・7/6(火)地域の方々と、大北川の水生生物調査と周辺の清掃活動を行う。

プランターに花苗を育て、中郷こどもの家に設置する。

・7/14（水）マリーゴールドの苗植えと中郷こどもの家へのプランターの設置

米作り（田植え・稲刈り・脱穀）を通して、地域の方々との交流を深める。

・米作り（・5/20(木)田植え、・10/5(火)稲刈り・10/19(火)脱穀）
　石岡交流会の方々との共同作業。活動後、石岡交流会の方々に感謝を伝える。
・稲の成長を観察し、記録をとる。

校内での活動を通して、奉仕の精神の育成を図る。

・日常的に休み時間後、花壇やグランドの除草作業を行った。
・清掃中は、黙働(無言で活動する)を励行し、奉仕の精神の育成を図った。
・サツマイモを栽培し、苗植、手入れ、収穫を通して、作業への意欲・奉仕への活動意欲を高める。

各活動について、児童が感想・反省をまとめた。
地域の方々にお礼の手紙を書き、感謝を伝えた。

【まとめ】
　地域の方々と連携した大北川の水生生物調査や大北川周辺の清掃活動、米作りの作業や中郷こどもの家へのプランターを設置する活動を通して、地域のために貢献すると共に、進んで奉仕する体験をすることができた。米作りにおいては、米の収穫後、石岡小まつりで米作りに携わった地域の方々を招待し、米作りについて発表をするとともに、地域の方々への感謝の気持ちを伝えることができた。
　また、校内で実施したサツマイモ栽培、花壇の手入れや除草作業、毎日の清掃活動を通して、自分から進んで人のためになる活動を実践しようとする意欲が高まった。

美化活動を通した奉仕の精神の育成、豊かな人間関係を築く住みやすい環境づくり、募金活動を通した社会貢献のあり方

大子町立だいご小学校

活動時期	活動場所	活動対象
通年	校内	高学年の児童

清掃活動

活動を通して、奉仕の心を育てる目的で通年を通して実施した。

黙働の徹底、衛生への配慮をしながら活動した。

花壇やプランターの整備・花の育成

活動を通して、奉仕の心を育てる目的で実施した。

6月下旬から学級や園芸委員会の活動として、花壇やプランターに花の苗を植えた。

（パンジー・サルビア・マリーゴールド・チューリップ）

園芸委員会を中心に、定期的に校内の花壇の手入れを行った。（草取り・水やり・苗の植え替えなど）

あいさつ活動

活動を通して、豊かな人間関係を築くために実施した。

標語を記載した横断幕を購入し、6月と11月に運営委員会と福祉委員会、PTA役員、担当教諭によるあいさつ運動を実施した。

募金活動

活動を通して、自分から進んで人のためになることを実践しようとする態度を育てるために実施した。

福祉委員会でポスターを作成し、各学級に募金を呼びかけた。

また、募金箱はペットボトルで作った物を準備。福祉委員会の児童が各学級に分配し、募金を募った。

日本赤十字社茨城県支部と町の福祉協議会へ「1円玉募金」として募金した。

【まとめ】

1年を通して、美化活動やあいさつ運動、募金活動など様々な奉仕活動に取り組むことができたことで、自分地震の周りのことに目を向け、自分で気づき、考え、実行することのできる児童が増えた。これらのことが続けていけるように、啓発していくことが大切だと思う。

健康・安全に配慮した学校行事の在り方

ひたちなか市立堀口小学校

活動時期	活動場所	活動対象
令和3年10月28日（木）	校庭	6学年児童

児童の健康・安全に留意して、校内陸上記録会を行った。
本部兼体調不良者の待機場所としてクイックテントを設置し、児童の健康・安全に配慮して活動を実施した。

【まとめ】
当初の計画では、奉仕の精神の育成を目指し、夏季休業中の親子清掃活動で活用する予定を立てていたが、臨時休業期間と重なり中止となってしまったので、別の教育活動に活用した。
当日は、実際に見学者がいたが、救護場所を設置しておいたことで見学者を待機させることができ、スムーズに対応することができた。

美化活動を通して、奉仕と感謝の心の育成を図る

坂東市立長須小学校

活動時期	活動場所	活動対象
令和３年11月中旬	学区内の事業所など	4学年～6学年、教職員

登下校時の交通安全指導や見守り活動に対する感謝の気持ちを表すために、感謝のメッセージを貼り付けたプランターに、パンジーなどの花を植え、学区内外の事業所などに届けた。

なお、令和４年１月に高齢者との交流会を通して、思いやりの心の育成を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となった。

【まとめ】
児童の活動により予定どおり実施することができた。地域の各事業所の方々にも大変喜ばれ、今後の連携に寄与することができた。

美化活動を通して奉仕の精神を高める～みんなの笑顔をつなぐさわやか活動の推進～

鉾田市立旭東小学校

活動時期	活動場所	活動対象
通年	校内	全校児童

【目的】
奉仕作業の基本理念「気づき・考え・実行する」を目指し、児童の自主的、積極的な活動の場を設定し、青少年赤十字の活動の目標や内容を基に環境を守るために何ができるかを考え、児童の奉仕活動に対する理解を深め、実践的な活動に対する意欲を高める。

花苗の育成

4月、10月に花苗の定植を行った。
各学年による花壇の植え替えを行い、
1年生が清掃時に除草作業を行った。
飼育・栽培委員会による花壇の追肥と管理（水やり）を行った。

愛校作業

月1回8時10分から8時20分の間に、飼育・栽培委員会が中心となり全校児童による縦割り班での愛校作業を実施した。

挨拶運動

児童会で挨拶運動の標語を考え、のぼりを作成。
ＰＴＡ・児童会・青少年市民会議の方々と毎月1・2回、
7時40分から8時までの間に、挨拶運動を実施した。

【まとめ】
児童の花を定植している様子や水やり・除草作業等から花や緑を介して、人と自然との関わり、生命ある物への優しい気持ちをもつことにつながっていると感じた。花や緑の栽培・奉仕作業を異学年で行うことで、新しい発見や人との繋がりをつくり、広げるという効果が得られた。また、きれいな環境を維持することは、児童の心の安定につながり、「みんなの笑顔をつなげる学校」につながってきている。
今後は、保護者・地域住民等への積極的な花育活動への発信、啓発を図り、地域交流の場、花育の場として、さらに地域が身近に感じられる学校づくりにつなげていきたい。

ボランティア活動を通した自己有用感の育成

土浦市立下高津小学校

活動時期	活動場所	活動対象
令和3年7月上旬から令和4年2月	校内及び学校周辺	各委員会や学年学級の児童

各委員会や学年学級の児童のアイデアをもとにしたボランティア活動を行った。

学校内の除草作業

5、6年生を中心に、グランドの除草作業を行った。

校舎外の落ち葉掃き活動

6年生の有志が登校後に校門や記念植樹周辺の落ち葉掃き及び伐採後の枝拾いを行った。

玄関周辺の清掃

朝や清掃の時間に昇降口マット等の清掃を行った。はじめは委員会活動であったがボランティア活動として取り組んだ。

学校側溝の清掃

児童と教師、PTAが協力して行った。

【まとめ】

児童のアンケート等でも、自主的な取り組みが活発になり、自己有用感が高まったとの記述が見られた。

コロナ対応等もあり、校内6年中心の活動となったが、次年度以降も自主的な活動の場面を設定して、ボランティア活動を推進したい。

自己肯定感を高める美化活動

日立市立駒王中学校

活動時期	活動場所	活動対象
令和3年11月6日（土）	宮田川周辺・宮田コミュニティセンター・中小路コミュニティセンター	駒王中生徒、学校職員、宮田川を守る会、地域住民、宮田コミュニティセンター職員、中小路コミュニティセンター職員

地域環境の美化を図る中で、地域の方に感謝する心を育て、奉仕の精神を養うために実施した。
JRC 委員が、１年生・２年生に対し、事前に地域美化ボランティア活動の希望者を募っている。

地域美化活動…生徒が３か所に分かれて奉仕作業を行った。

【１学年：２箇所のコミュニティセンターの美化活動】
コミュニティセンター建物内外の清掃・窓ふき・ゴミ拾い

【２学年：宮田川周辺の美化活動】
地域の方が刈った草を集める。河原のゴミを拾う。土手の草を刈る。草を集める。

なお、６月も地域の方と協力して美化活動を行う予定であったが、新型コロナ感染症拡大のため中止となった。

【まとめ】
校内での地域美化ボランティア募集には、90 名を超す希望者が集まった。生徒の心に奉仕の精神が育って来ている。
地域の方と一緒に協力しながら作業をする中で「ありがとう」や「助かるよ」などの声を掛けられることで、生徒の自己有用感が高められた。（生徒の感想より）
自分の住む地域の美化活動をすることで、自らが気持ちよく生活できたり、地域の方から感謝されたりと、地域への愛着が高まった。（生徒の感想より）
以上のことから、テーマが達成され、有効な活動ができたと評価できる。

赤十字カルタを作成する

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校

活動時期	活動場所	活動対象
令和3年10月から	校内	JRC部員

【目的】
コロナ禍において赤十字について学ぶ機会が減っている。そこで、カルタ作成を通して自らが赤十字について学ぶと同時に加盟校の小中学生が、作成したカルタを使って楽しく赤十字について学ぶことができるようにする。

【実施内容】
赤十字について、県が主催するトレーニングセミナーに参加したり、日常の活動や各種研修会や交流会で学んだことを活かし、カルタの読み札、絵札を作成した。

（10 月～11 月）自分たちで赤十字について学びを深めよう
県トレーニングセミナー受講

（10 月～12 月）読み札の作成
共同作業ができる Google ドキュメントを活用し、部員それぞれが読み札案を入力した。

（1 月）　印刷業者との打ち合わせ

（1 月上旬）　読み札の決定
内容が重複している読み札や、はじめの一語が重複している札を調整した。

（1 月中旬～）　絵札の作成
担当を決め、部活動の Google クラスルームに作成した絵札案を生徒がそれぞれ入力し、検討を重ねた。

（2 月）　印刷業者への発注

（3 月）　赤十字カルタ完成（予定）

【まとめ】
カルタの作成を通し、JRC 活動の根底にある赤十字の理念や歴史について学ぶことができた。
コロナ禍において休校等で部活動が思うようにできなかった時期もあったが、オンラインも活用し生徒同士が意見を共有し、完成させることができた。
今後、カルタは水戸地区の加盟校で活用していただけたらと考えている。

パートナーシップでみんなが住みよい街づくり

茨城県立佐和高等学校

活動時期	活動場所	活動対象
通年	校内及び通学路	JRC部員、生徒会役員、希望生徒

緑のカーテンでエコチャレンジ

地球温暖化防止を目的に、校内で緑のカーテンづくりを行った。

苗の植え付けや水やり、カーテンの補修などの手入れや、気温を測定し温暖化防止の効果検証などを行った。

地域の清掃活動

地域の環境美化を目的として、校内および通学路のごみを拾う清掃活動を行った。

被災地に土のう袋を送る活動

被災地支援のため、JRC 部員・生徒会役員が被災地に土のう袋を送る活動を行った。

土のう袋にイラストやメッセージを書き、梱包等の発送準備をした。

ペットボトルキャップ回収活動

世界の子どもたちにポリオワクチンを寄付するため、JRC 部員が各教室からペットボトルキャップを回収し、水戸市の福祉団体に託す活動を行った。

エコクッキング講習会

令和４年３月にＪＲＣ部員および希望生徒がエコクッキング講習会を実施する。

エコクッキングの普及が目的で、野菜の皮などをパスタの具材として活用する。

【まとめ】

「ひたちなか市の環境を良くする会」の先生方から御指導をいただきながら、環境に関する活動に力を入れて取り組んできた。まず、年度始めの４月に「ひたちなか市の環境を良くする会」のメンバーで茨城高専名誉教授(工学博士)の先生をお招きして環境学習会を実施した。そしてそこで学んだことをもとに春～秋にかけて緑のカーテンづくりを行い、真夏の時期に緑のカーテンの内側と外側の温度を測定して、緑のカーテンの温暖化防止効果を検証した。環境について学んでいく中で、身近な地域の環境にも関心を持つようになり、定期的に、学校から駅周辺までの清掃活動を行った。途中で地域の方々から声をかけられることも多く、地域の方々との交流に繋がったことは思わぬ収穫であった。今後も地域から世界に目を向け、地域の方々との関わりを大切にしながら、環境保護・改善のための活動に積極的に取り組んで行きたい。